



会津教育事務所社会教育だより



VOL 2 令和4年6月29日発行

【TEL 0242-29-5488 FAX 0242-29-5494】

不登校に悩む家庭への一助に～家庭教育支援・社会教育からのアプローチ～

6月16日(木)に会津若松合同庁舎において「令和4年度第1回地域家庭教育会津ブロック会議」を開催しました。

現在、全国や福島県の不登校児童生徒数は、年々増加しています。さらに、コロナ禍による生活環境の変化は、生活リズムが乱れやすい状況や学校生活における様々な制限により、登校意欲が湧きにくい状況が加わっているとも考えられます。また、不登校は、様々な要因により、特定の子どもに起こるのではなく「どの子にも起こりうる」と捉え支援していく必要があります。

そこで、本会議では、昨年度から3年次計画により「会津地区の不登校支援」をテーマとし、家庭教育の視点から具体的にどのような支援ができるのかPTA代表者、企業関係者、家庭教育団体関係者、保健福祉や社会教育の行政関係者等19名が委員となり協議を進めています。

今回のグループ協議では、普段の子どもへの接し方、生活リズムの形成、学校との関わり方、地域の関わり方、家庭で心がけたい点、登校を渋るときにはどうするか等についてそれぞれの立場から熱心に話し合われました。今回、熟考された内容を「リーフレット」にまとめて紹介し、不登校支援や日頃の家庭教育に役立てていただく予定です。



「不登校児童生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と文部科学省で定義しています。



できること、得意なことを地域から学校に！地域の力を子どもの学びに！ ～地域連携担当教職員等研修会～

6月21日(火)にやないづふれあい館にて「地域連携担当教職員等研修会」を開催し、小・中・義務教育学校・県立高校の先生等49名が出席されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の基本対策を踏まえ、会津教育事務所主任社会教育主事の講義、福島大学准教授 前川 直哉氏の講話、会津美里町地域学校協働本部 統括的な地域学校協働活動推進員 山口 健氏と喜多方市立第一中学校教諭 柳沼 勝氏の実践発表を行いました。

参加者アンケートでは、「具体的な実践について発表いただき参考になった。我々教員側として大事にしなければならないことは何かを共有していきたい」「学校が地域を巻き込むことは難しく、それが敷居が高いとも言われる所以である。子ども達にとっては何が必要かWinWinを考え取り組みたい」「社会に開かれた学校を目指し、各地域が人材や資源を活用して取り組んでいることがわかった。Try&errorでよりよいものを目指していきたい」などの感想がありました。

「教育のプロ(学校)」と「地域を知るプロ」が相互に補完し合い、連携・協働することで子どもへの効果がより高められます。会津教育事務所HP「連携・協働のカタチ」でも事例を紹介しておりますので御覧ください。



講話 前川氏



実践発表 柳沼氏 山口氏